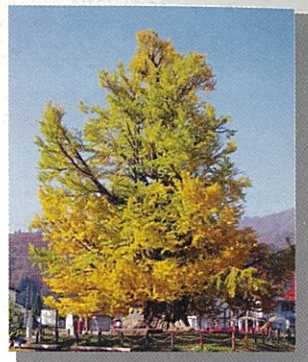


南会津のうりんニュース

第66号 平成15年11月10日発行
福島県南会津農林事務所



今月の内容：今月のトピックス／この人を知りたい（下郷町・湯田昌知さん）／私と南会津（東京都世田谷区・馬場ワカ子さん）／研修会・講習会等お知らせ

今月のトピックス

木の温もりあふれる 南会津木材フェア開催!



澄み渡った秋晴れのもと、「南会津木材フェア」が10月4～5日の2日間にわたり、田島町の会津山村道場で開催されました。このフェアは、南会津地域の豊かな森林資源を背景とした伝統的な森林文化や木工芸品をPRするために行われるもので、地域の木材関係業者8社で組織される南会津木材フェア実行委員会が中心となり、平成13年度に初めて開催されてから今年で3回目となります。

屋外会場では、広葉樹の巨樹丸太や大きな和太鼓の展示、屋内会場では、木工教室や木のおもちゃのコーナー、座卓用の大きなトチノキの板を並べた木製品展示など、様々な木材・木工品が展示されたコーナーが設けられ、来場者は実際に手にとったり木の香りを感じたりしながら、木のぬくもりにふれていました。

今回のフェアの大きな特徴として、地域の伝統技術を継承されている方々の実演を企画したことです。南会津最後の木地師であり、平成14年度に森の名手・名人に認定された田島町の湯田鶴美・キチ御夫妻と、トチノキを用いて大きなこね鉢をこしらえる檜枝岐村の平野和利さん、そして会津若松市で木彫りに取り組んでいる武藤義且さんが、フェア会場において“匠のわざ”を披露してくださいました。

また、地元の藤生区と下郷町林業振興協議会(きのこ部会)も参加していただき、地物のキノコ汁の振る舞いやキノコ即売会などが行われて、来場者から好評を博していました。

(森林林業部)

大桃集落の 豊かなむらづくり



伊南村の大桃集落は、今年3月に「豊かなむらづくり全国表彰事業」の福島県代表に選ばれ(南会津のうりんニュース第59号にその記事が載っています)、その後東北農政局による審査を受けてきましたが、このたび、東北農政局長賞を受賞しました。

10月29日に仙台市で行われた授賞式には東北各県の受賞団体が集まり、大桃集落からは区長代理(前区長)の平野進さん、心のふるさと創造計画実行委員会長の平野均さんが出席しました。

大桃集落は、集団転作によるそばの団地化、20数年ぶりの「大桃の舞台」での歌舞伎の復活、高畑スキー場でのフラワーパーク、地域資源を活用したグリーン・ツーリズムへの取り組みなどが高く評価され、今回の受賞となったものです。

授賞式の中で行われた事例報告で、平野区長代理は大桃集落のむらづくりの取り組みについて改めて説明し、「住民が「ここに住んで良かった」と思えるような地域づくりを推進してゆきたいと思います」と、今後への決意を述べました。

また、翌30日には県庁農林水産部と福島民友新聞社を訪れ、受賞報告を行いました。

この受賞を機に、大桃地区の更なる豊かなむらづくりへの取り組みに期待します。

(地域農林企画室)

林業コンクール2部門で知事賞受賞!!



10月25日(土)に郡山市のホテルバーデンにおいて、福島県林業コンクール等の表彰式が行われました。これは、第28回福島県林業祭の関連行事として行われたもので、南会津管内からは造林部門で下郷町の遠藤茂さんが福島県知事賞を受賞したほか、林業経営改善複合部門でもハタケシメジやマイタケ等のきのこ栽培の第一人者である渡部善一さんが県知事賞を受賞しました。その他、下記のとおり多数の方が表彰されました。授賞式では、渡部善一さんが受賞者を代表して謝辞

を述べ、今後の活動への意欲を示しました。

(森林林業部)

○第54回福島県造林コンクール

- ・造林部門
福島県知事賞 下郷町 遠藤茂
- ・間伐技術部門
県緑化推進委員会長賞 下郷町 佐藤良市
- ・林業経営部門
福島県知事賞 下郷町 渡部善一

○平成15年度学校関係緑化コンクール

- 県緑化推進委員会長賞 下郷町立南小学校
- 県学校緑化推進委員会長賞 舘岩村立舘岩小学校

○福島県きのこ品評会

- ・乾しいたけの部
県森林組合連合会長賞 只見町 梁取徳雄
- ・なめこの部
県農業協同組合中央会長賞 只見町 長谷川達海
- ・ひらたけの部
県きのこ振興協議会長賞 下郷町 星源一
奨励賞 下郷町 渡部善一

南郷中学校で林業体験学習が行われました



南郷中学校2、3年生60名が林業体験学習を行いました。

これは、南郷村教育委員会が主催したうつくしまボランティア事業「中学生エコ活動(環境保全ボランティア)」によるもので、「生きる力」を育む教育の一環としてボランティア活動に取り組むとともに、郷土の理解、自然や林業の役割について学習することを目的に実施されました。同中学校では、昨年、地元の和泉田造林組合長の星哲夫さんの呼びかけで林業体験学習が行われており、その活動が今回の実施に繋がりました。

星さんは、「自然は色々なことを教えてくれる。豊かな森林が身近にあるが、意外に子供達が自然に触れる機会が少なくなった。郷土の森に目を向けるきっかけになってくれれば」と話してくれました。

(森林林業部)

「南会津のそば打ち講習会」を開催しました

南会津の新そば粉を使い、地域を代表するそば打ち名人の技を皆様にお伝えするとともに、南会津特産の腰が強く、優れた品質の「そば」を皆様方によく知っていただきたいということで、「南会津そば打ち名人出前講座」を、一昨年から東京都台東区において開催してきました。

今年は、地元の自然豊かな環境の中でそば打ちを体験し、新そばを食べていただきたいとのことで、10月19日、下郷ふれあいセンターにおいて「南会津のそば打ち講習会」を開催しました。

これは、「まると南会津地産地消フェスティバル」の一環として開催したもので、36名が参加しました。

まず各町村の名人6名がその技を披露しましたが、参加者の約半分が県外から来られた方で、そばの打ち方も「裁ちそば」など他では見られないものもあり、名人の技に驚いたり、感心していました。

その後、名人指導のもと各参加者それぞれに、そば打ち体験をしていただきました。

そして最後に各名人の打ったそばを試食し、南会津の新そばの、挽きたて・打ちたて・茹でたてを味わっていただきました。南会津の秋を十分に堪能していただけたと思います。



(地域農林企画室)

森の名手・名人認定される



檜 枝岐村在住の星寛さんが、「森の名手・名人100人」に認定されました。

「森の名手・名人100人」とは、社団法人国土緑化推進機構が主催となっている「もりのくに・にっぽん運動」の一環として、木こりやマタギ、炭焼きなど森とともに育まれた技

を持った方を全国から掘り起こし認定しているもので、昨年に引き続いて2回目の実施となります。

星さんは、ネズコを材料として「曲げわっぱ」を作る名人。昔は多くいた職人さんも、現在は星さんだけとなったそうです。

すべて手作業で仕上げられる曲げわっぱは、おひつや弁当箱、お盆等として利用されている檜枝岐村の伝統工芸品。特に、材料となっているネズコは、黒ヒノキ

とも呼ばれ抗菌性が強い割に独特の香が少ないため、お弁当箱に適しています。更に、余分な水分を吸ってくれるので冷めてもおいしくご飯が頂けます。

南会津管内には、昨年認定を受けた田島町在住で木地師の湯田鶴美、キチさん夫妻もいます。

森林とともに暮らしてきた南会津は、こうした森林文化が数多く残っている地域です。

安さや便利さ、手軽さが重視されている現代社会。「手仕事」のぬくもりをもう一度見直してみたいはかがでしょうか。
(森林林業部)



この人を知りたい

下郷町土地改良区について

(下郷町 湯田 昌知さん)



下郷町土地改良区の湯田昌知さんは平成13年から理事長を務めており、土地改良事業に非常に熱心な方です。その理事長さんに現在の農政に対する考え方をお聞きしました。

① 土地改良事業への取り組みについて

作業効率のよい農地を子孫に受けつがなければならぬと考えています。そのためにも経営体育成基盤整備事業と名前は変わったが、ほ場の整備を実施し農業機械の稼働効率を最高に発揮していきたいと考えています。現在倉村地区、楯原地区において事業計画中でありますが、各種条件をクリアして、一日も早く母ちゃんたちが安心して運転できる道路にしたいですね。

② 今後の土地改良区の取り組みについて

全てではないが一部の水門について、操作をする管理人に対し危険地域であることから保険をかけ



下郷町倉村の「円蔵堰」です。

ています。豪雨時における水門の開閉操作は、環境条件の悪化により本当に苦勞します。死を覚悟して操作しなければならないときがあり、電動化あるいは負荷のかからない操作盤に代えていかないと、操作する人がいなくなってしまう。

お聞きしたことは外にも沢山ありましたが、別れ際に話された理事長さんの言葉が印象的でした。「私は弱い方には面倒を見て、強い方には対抗するというハングリー精神があり、高齢になった今でも、ムラムラと腹の底から湧いてくるときがあつて自制しているのだけれど、ついやってしまうのですよ」と笑いながら語りかけてくれました。その語りかける表情から、真実一路、大衆路線をモットーとする心意気が大いに感じられ、私たちもその誠実さに心打たれたところです。

(農村整備部)

心を裕にしてくれる会津

東京都世田谷区 馬場ワカ子さん(伊南村青柳出身)

伊南村を離れ40数年になります。目を瞑れば、春には残雪の尾白山と伊南川にはゴーゴーと音をたてて川いっぱいの水が流れ、山には桜、こぶし、満作、家の周りでは梨や桃の花が待ってましたとばかりに咲きだし、まだ雪が残っている土手には小さな緑の新芽が吹き、福寿草がかわいい黄色の花を咲かせ、一斉に春だーと言っている様な、心うきうきした春が大好きで陽当たりの良い土手に箆を敷いてもらい、叔父(立川の飛行場に居た)が飛行機の羽で造ったという弁当箱で日の丸弁当をよく食べた、そんな風景が浮かんできます。

夏休みは伊南川で水浴び(水泳)をするのが日課でした。畔の両脇の草を結び後から来る誰かが引っかかって転ぶのを楽しみにいたずらをしたり、川に沢山メダカがいたので1枚の手ぬぐいの両端を二人で持ちメダカを掬い、泳ぎが上手になると言って飲み込んだものでした。本当に沢山のメダカがいました。今こんな話をしても川の水も汚く、想像もつかないことでしょう。さんざん遊んで体が冷えると、太陽で暖かくなった大きな石に腹をくっつけお腹を真っ赤にして温まったものです。青い空には入道雲がモクモクと湧きだし、遠くの方からゴロゴロと聞こえてくる時分には丁度家では大人達の昼寝が目覚め、3時の

お茶の時間となるのです。

秋は一雨毎に紅葉していく山や、黄色の絨毯が刈り取られた田んぼでお年寄りや子供達は手拭いで作った袋を持ち、蝗(いなご)を取り食卓の一品となったり、学校では図書で購入費の為に蝗捕り、ストーブの焚き付け用に杉の葉拾いの共同作業もありました。遊びの道具は自分達で造り、夕方暗くなるころ「ラジオが始まるよー」(連続ドラマ)と呼ばれるまで皆で良く遊びました。

そんな山や川が大好きで年々田舎に帰るのが多くなりました。自然が何時までも残る様にと、土地を離れた者の我儘かも知れませんがお願いするばかりです。

取りとめもなく思い出すままに筆をとりました。

～馬場さんは現在、東京・南青山の特許事務所で働いておられます。～



～研修会・講習会等お知らせ～



内 容	月 日	場 所
①トラクタの日常点検と主要作業機の取扱い	12月1日(月)～3日(水)	農業短期大学校 (矢吹町)
②加工施設導入のための施設整備	12月2日(火)	農業短期大学校 (矢吹町)
③県産小麦を使った菓子加工	12月11日(木)	農業短期大学校 (矢吹町)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

古町の大銀杏
(伊南村古町)

撮影：円谷

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

PRINTED WITH
SOY INK™